

# ひびき

教育目標：「なかよく かしこく たくましく」

三本柱：さわやか挨拶 聞き方・話し方名人 いきいき運動

多治見市立共栄小学校 R元年9月30日

## 【勝負を通して育てる豊かな心】 校長 宮地 敏彦

9月は、全校が熱く燃え上がる運動会がありました。今年度は天候不順で延期となり、平日開催にも関わらず、ご来校いただいた地域の皆様、安全な運営に尽力して下さったPTA役員の皆様、お弁当作りや声援で子どもたちを励まして下さった保護者の皆様、ご支援ありがとうございます。赤組・白組ともに応援リーダーや児童会委員長が中心となって、事前の取り組みから気持ちを高め、本番でも精一杯の力を出し切ることができました。素晴らしい一日となりました。

最近、結果に勝敗をつけない運動会や、順位をつく種目を採用しない運動会を実施する園や学校があるそうです。しかし、運動会は「集団で勝敗を競う体育的行事」ですから、本校では、勝敗にもこだわってほしいと願っていました。国や時代を問わず、スポーツで人々が感動するのは、勝利を目指して全力でひたむきに戦う選手たちの姿に心が揺さぶられるからです。運動会でも「赤（白）組に絶対に勝つ！」という強い気持ちが団結をつくり上げました。その気持ちがあるからこそ、全力で走り、声を張り上げて応援し、力を出し切ることができ、事前の練習にも真剣に取り組むことができます。ただし、**勝敗のみに**こだわってしまうと、優越感や劣等感、不正行為等を助長する恐れがあります。運動会の取り組みは“豊かな心”を育てるためにあります。

子どもたちは今後、中学・高校等に進学し、各種の大会等でいろんな人と競い合うことでしょう。また、社会人になって生きていくとき、勝敗という形ではなくても、失敗したり、努力しても報われないと感じたりすることがきっとあります。そんなときの心のもち方を学ぶためにも、“勝敗のある取り組み”というのは大切な体験の一つだと思います。

『勝っておごらず、負けてくさらず、互いに感謝とほめたたえ』の心をもつ人になることを願っています。

## 【通知表の思い出】

10月11日（金）に令和元年度の前期が終わります。担任をしていた頃、学期の終わるこの時期につらいのは成績を付けることでした。長年、中学校で体育を教



えていた私は、評価の観点から5段階の評定を出します。評価規準にしたがって客観的に評定を行いますが、当時は相対評価であり、「5」や「1」の比率が決まっていた。一生懸命頑張っている生徒に「1」や「2」をつけなければならぬときに、教科担任としては、その子の顔が浮かび、本当につらいものです。私に限らず、多くの教師が同じような思いを抱いたことでしょう。機械的に評定するだけの教師はまずいません。所見欄にもその子の伸びを願って、よさや課題を記入します。

子どもの頃、体育は大好きだけど勉強は好きじゃない、典型的なわんぱく少年だった私はよくない成績の通知表をもらって、家へ帰る時のカバンの重さを経験しているだけに、児童の気持ちはよく分かる気がします。逆に評価が上がった時は、カバンも気持ちも軽いものです。幸い私の両親は、小学校6年間ずっと「落ち着きがない」という所見をもらっていた私に、毎回『つぎ頑張らんとね。』とほほえんでくれていました。（健康で元気であれば、それだけで幸せだったそうです。）

私が学級担任をしていた時、親さんの中には、子どもの通知表を仏壇に供える方もおられました。ひと学期を健康で無事に終えられたことの“ご先祖様への報告”、通知表を書かれた“先生への感謝の気持ち”からだと聞き、感心したことを思い出します。

通知表に示されるのは、各教科の評定（達成項目に○）だけではありません。「行動のようす」や「総合的な学習・外国語活動の様子」、「欠席日数」そして学級担任による「所見」等があります。「行動のようす」については、担任だけでなく、その子に関わるすべての教職員がその子のよさを交流し合って記入します。「所見」は学級担任が下書きをし、教務主任や教頭・校長が目を通し、より適切な表現や意欲を高める書き方をするよう指導します。通知表は担任が心血注ぐ“愛の手紙、”と言えるかもしれません。（※現在、本校を含む多くの学校で、所見は後期のみ記入となっています。）

以前、保護者によってはほとんど「○」の位置や個数しか見ないという方もありましたが、成績よりも生活ぶりを知りたいという思いから、まず「所見」を見るという方もあります。また「出欠欄」を見て、欠席のないことをまず感謝し、子どもをほめる方もあります。通知表のどこを見て、親がまず何を言うのか…、そこに親さんの価値観が表れます。子どもたちはそれを敏感に感じとるものです。10月11日（終業式）、共栄小保護者の皆さんはどのような言葉がけをされるでしょうか。通知表を囲んで、ご家庭に「わ（輪、話、和）が生まれることを願っています。